

序  
徳島県知事 飯 泉 嘉 門

このたび徳島県立農林水産総合技術センター農業研究所は、幾多の変遷を経ながら、100周年の節目の年を迎えることとなりました。当研究所は、明治36年に徳島県農事試験場（現徳島市鮎喰町2丁目）として発足し、昭和32年には徳島県農業試験場と改称され、平成13年度より現在の名称となっております。

この間、藍や養蚕、米をはじめとする食糧の増産、野菜や花きの高品質・安定生産など時代のニーズに即応しながら徳島県農業の技術拠点として幾多の研究成果をあげ、また、技術員養成機関として本県農業の振興に寄与して参ることができました。これもひとえに、農業者をはじめとする多くの関係の皆様方の御協力と御理解の賜であり深く感謝申し上げます。

さて、近年、輸入農産物の急増、従事者の減少や高齢化、さらには牛海綿状脳症の発生、食品偽装表示および無登録農薬問題等による消費者の食に対する安全性への意識の高まりなど、農業を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。このような変革の中、本県におきましては、新鮮な農林水産物の供給基地としての地位をさらに強固なものとするため、供給量の拡大と品質の向上を図り付加価値を高める取り組みが必要と考えております。

そこで、産地と消費地の連携いわゆる「産消連携」による新しい「オンリーワン産地の育成」をはじめ、消費者の視点に立った認証制度の構築などによる「食」の安全・安心への取り組みなど、「新鮮とくしまブランド戦略」を進め、徳島ブランドを揺るぎないものへと確立して参りたいと考えております。どうか、県民の皆様方には、本県農業の発展のため、更なる御理解・御協力を、お願い申し上げます。

最後になりましたが、この度の百年史の発刊が、今後の研究に活かされ、創造性に満ちた技術開発につながり、ひいては本県農業・農村の振興と県勢の発展に寄与できることを心より祈念いたしまして、発刊に当たっての御挨拶といたします。

平成16年3月

